

2023 年度 埼玉東上地域教育プラットフォーム高等学校調査報告書

TJUP 学生募集活動推進グループ

調査年度：2023 年度

調査対象高等学校：プラットフォーム参加大学・短期大学による高等学校訪問等でデータ提供いただいた高等学校（非公開）

調査対象生徒：2023 年 3 月卒業生

報告者：畠山昭士（埼玉女子短期大学）

報告日：2023 年 9 月 14 日

1.高等学校への調査目的

埼玉東上地域教育プラットフォーム(TJUP)では、地元生まれ育った人が、地元で学び地元で活躍できる地域づくりに貢献することを目的に活動を行っている。そこで、TJUP 参加大学・短期大学近隣の高等学校を中心に依頼し、地域の高等学校のニーズを把握し、今後の方針・展開を検討するために以下の調査を行った。

2.調査結果

1)大学・短期大学進学率

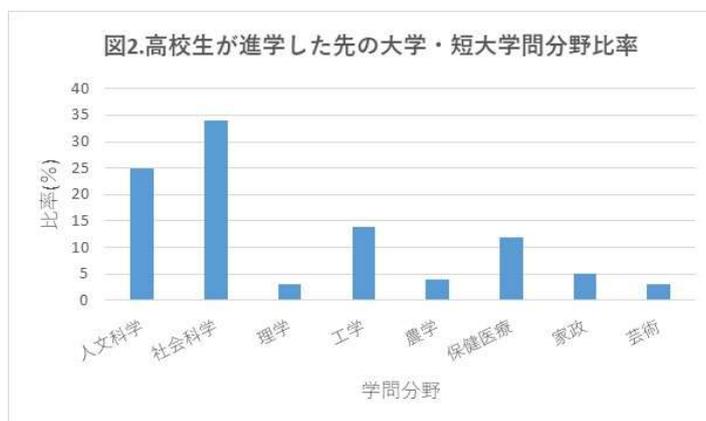
調査した高等学校の大学・短期大学進学率は平均して 59.4%であった。令和 4 年度の調査結果ではあるが、大学(学部)・短期大学(本科)進学率全国平均は 56.6%（文部科学省令和 4 年度学校基本調査）であり、今回の調査高等学校の進学率は全国平均より **2.8** ポイント高い結果であった。

2)埼玉東上地域に所在する大学・短期大学への進学率

調査対象高等学校から埼玉東上地域の大学・短期大学への進学率は 33.3%と少ない。令和 4 年度の調査結果ではあるが、大学入学者のうち「自県（出身高等学校と同一県）内の大学へ入学した人（率）の比率」について、全国平均は **44.1%**、埼玉県は **36.7%**（文部科学省令和 4 年度学校基本調査）であり、埼玉東上地域も含め、埼玉県の高校生は他の地域にある大学へと進学する傾向が顕著であることが明らかになった。

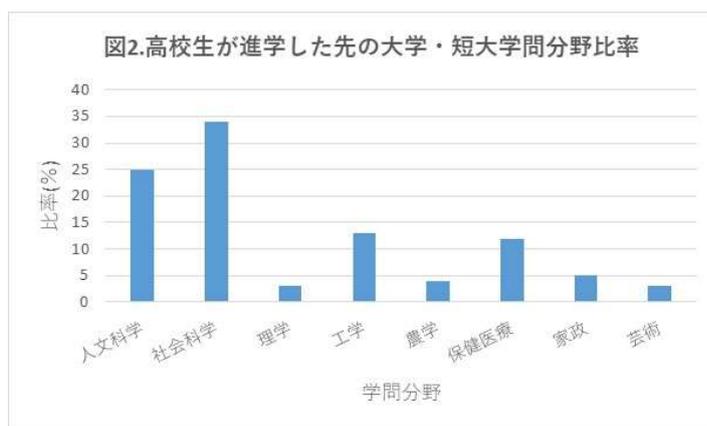
3)地域に必要な大学・短期大学の学問分野

高等学校に、埼玉東上地域の大学、短期大学に必要な学問分野を聞いたところ、図 1 のような結果となった。人文科学・社会科学といった文化系学問の比率が多く、また理科系学問では工学や保健医療といった実社会に役に立つ学問へのニーズが高等学校教員側では大きいことがわかった。



では実際に、高校生が進学した学問分野について調査した結果が図2である。

図2からは、人文科学、社会科学分野に進学する高校生の割合が、高等学校教員側が望む進学率同様非常に多いことがわかる。社会科学分野には、法学・政治学・経済学・経営学・社会学が当てはまり、昨年度の本調査同様、同分野への進学率がかなり多い結果となっている。続いて工学、保健医療分野への進学が多くなっている。



4)大学・短期大学との連携

大学、短期大学との連携について、計画中・実行中のものについて調査した。出張講義、出前授業、生徒の学習支援、探究の授業における講義、地域課題研究の実践、大学施設の見学ツアーの実施などを通して、専門的な知識や設備に触れる機会を設け、高校生の将来の進路意識を高める契機、学習意欲の向上につなげる観点での連携についていくつか挙げた。

5)埼玉県の大学・短期大学への期待

埼玉県の大学・短期大学に対する期待を自由回答で記載してもらったところ、以下の意見が得られた。

- 興味深い内容の学問、学生の人間形成。
- 近隣にあっても、知られていない大学や短大があるため、TJUPに参画している大学の所在地、学びが分かるマップがあれば、校内で掲示し、進路指導の参考にできる。
- 就職や将来に役立つ、経験や活動を増やしていただきたい。
- 生徒が「行ける」大学から、魅力ある大学に「行きたい」と思える交流事業の促進。
- 教育の成果（進路や資格取得状況など）が、さらに高校生に伝わるようになると良い。
- 家庭の経済状況が厳しい生徒に対する施策をしていただくと、選択肢が広がる。
- 学生一人ひとりに寄り添った指導を期待している。
- 学力だけではなく人間性豊かな社会で活躍できる人材を育てて欲しい。近年スポーツで活躍する大学が東上線沿線にも増えているが、さらに多くの大学にもスポーツ面で頑張ってもらいたい。
- スポーツやその他の分野でも全国で活躍するような学生が増え、活気が出てきてほしい。
- 他大学や、他の地域とは異なる個性的な学科があると良い。
- 身近な大学として中高生たちが各分野の専門的な学びに接する機会を多く設けてほしい。
- 地域との連携、その地域に関しての研究への取組。卒業後、その地域で活躍できる人材の育成。
- 地元への就職と将来的な地域創生への貢献を果たせる人材の育成を期待。
- アクセスの良さは地元志向が強い昨今において大きな要素である。各大学独自の取組や強みが見えてくると良い。

- 最近は生徒の中で、漫画やドラマの影響が“心理”という分野に興味を持つ生徒が増えている。
東上線沿線でもそうしたことが学べる大学が増えていると感じる。
- 埼玉東上地域には、多種多様で魅力的な「学びの場」が揃っている。
- 地元で学んだ生徒が、地元で進学し、卒業後、生活者として地域振興につながる社会参加ができる地域モデルが創出できたら良いと考えている。進学先での学びだけではなく、就職も含めたイメージを生徒・保護者に具体的に提案できる形になったら良いと考えている。
- オンラインによる大学の専門的な授業を受講できるとありがたい。
- 特に理学・工学分野において研究力のある大学・学部の設置に期待する。
- 都内へのアクセスの利便性と、埼玉の自然を生かした、課外活動、地元の町おこし企画や、地域のイベントへの企画・運営・参加など。

3.まとめ

TJUP 参加大学・短期大学は高等学校教員が地域に必要と思っている学問分野を有しており、その比率もニーズと合致している。今回貴重な意見も多数寄せられた。

今後も TJUP 参加大学・短期大学と、地元の高等学校との話し合いを密に行い、高校生が地元の大学・短期大学に進学したいと思える、教育の「見える化」を進める為にこれまで以上の連携方法を検討する必要がある。